

1. 課題区分・管理番号 地域活性化課題・28-C005

2. 研究テーマ名 前橋を中心とした絹文化の調査及び周知活動

3. 研究期間 平成28年8月1日 ～ 平成29年3月31日

4. 研究代表者 工学部／建築学科 講師 臼井敬太郎

5. 課題提案者 上州文化ラボ 村上雅紀

6. 研究成果の概要

下欄には当該研究成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、地域課題研究事業計画書に記載した「研究目的」と「研究計画・方法」に照らし、A4で2～3枚程度で、できるだけ分かりやすく記載願います。文章の他に、研究成果を端的に表す図表を貼り付けても構いません。本学HPにて公表しますので、公表できる内容としてください。

本研究は、前橋を中心とした絹文化を調査し、得られた知見を周知することで、前橋市民の歴史文化への関心を高め、シビックプライド形成に寄与することを目的としている。平成27年度の地域活性化研究を継続して、現代の前橋において必ずしも十分に認識されていない蚕糸業の実態を調査し、ストックして残る絹遺産について近代化遺産、文化遺産として再評価し周知する活動を行った。今年度に展開したのは、具体的には以下5つの活動である。(1)「前橋絹遺産MAP」の印刷と配布、(2)「碓氷製糸見学会」の主催、(3)「生糸商標ラベルと古地図から読み解く前橋の蚕糸業の研究」、(4)「旧安田銀行担保倉庫における周知活動」、(5)「まちなかキャンパス」の開催である。

現在も市内公共施設を中心に配布している(1)「前橋絹遺産MAP」(図1,2)は、昨年度の研究成果をまとめたものを地図として表裏に印刷したもので街歩きのツールとしても期待される。(2)「碓氷製糸見学会」(平成28年12月)では、市民学芸員をはじめ、前橋の歴史や文化に関心をもった市民など多数の参加があった。群馬県内に現存する唯一の機械製糸工場の現状と蚕糸業に関連の深い歴史的建造物に触れ、日本の蚕糸業が壊滅的状况にある状況、歴史的建造物の解説を通じた近代化遺産の豊饒さを共有することができた。(3)「生糸商標ラベルと古地図から読み解く前橋の蚕糸業の研究」においては、かつて生糸に添付されていた商標ラベル(以下、生糸チョップ)と前橋市の古地図を収集し分析を行った。生糸チョップについては、前橋市内の製糸会社(および工場)に関連するものを収集し、製糸会社と所在地を特定する調査を実施した。収集できた生糸チョップについては、40種を超えた。また、前橋市内の古地図については、大正14(1922)年、昭和7(1932)年、昭和14(1939)年の地図を収集した。これらと文献史料や古写真等と照合した結果、上記の生糸チョップにも関連する前橋市内に存在した製糸工場の所在地の多くを特定できた。

上記の成果について、展示パネルとして「活動紹介パネル」（図 3）、「前橋生糸チョップ マップ」としてまとめた。これらは、(4)「旧安田銀行担保倉庫における周知活動」として「前橋大空襲 慰霊の集い」（平成 28 年 8 月）や「前橋映画祭」（平成 28 年 12 月）、(5)「まちなかキャンパス」での発表（平成 29 年 3 月、（前橋市、前橋商工会議所共催）を通して、周知した。「まちなかキャンパス」では、本年度の研究内容を総括するかたちで『前橋の蚕糸業を学ぶ ～過去・現在・未来～』と題して発表した。上州文化ラボの村上代表は、幕末から戦前までの前橋の発展が蚕糸業と密接に関連したことを生糸チョップや製糸会社（工場）の話を変えて解説した。本研究代表者の臼井は現在の前橋の都市景観が大正時代の製糸会社（工場）跡地を軸に形成されていることを古地図から読み解き、蚕糸業の記憶が歴史的建造物だけでなく、現在の何気ない風景の中にも、その痕跡が認められることを解説した。さらに、蚕糸業の未来を学ぶ話題として、JA 前橋市大胡稚蚕飼育所の楠氏と前橋市農業共同養蚕連絡協議会の松村氏を講師に迎えた。それぞれのレクチャーから、養蚕業が壊滅的状況であり、その現状維持が困難である一方、近年成果を上げつつある遺伝子組み換え蚕のタンパク質を利用した新しい養蚕業の可能性が示された。4 者による発表を通して、過去から現代まで連綿と続く前橋の蚕糸業について新たな視座が示され、地域活性化のきっかけになりうる話題を共有した。今後も前橋を中心とした蚕糸業の歴史を検証し、研究のストックを地域活性化や地域振興に活用していきたいと考えている。



図 1. 前橋絹遺産 MAP (B4, 表面)



図 2. 前橋絹遺産 MAP (B4, 裏面)



上州文化ラボは、

前橋市住吉町二丁目にあります旧安田銀行担保倉庫（国登録有形文化財・ぐんま絹遺産 登録）を拠点に活動する市民団体です。市内に残る歴史文化遺産を紹介する「前橋歴史遺産探訪」の開催や昭和20年8月5日の前橋大空襲の記憶を語り継ぐ「慰霊の集い」の主催など地域に根ざした活動をしています。

平成 27・28 年度は、前橋工科大学の地域活性化研究において同大学工学部建築学科臼井研究室と共同で「前橋を中心とした絹文化の調査及び周知活動」を行なっています。

この事業の一環で、前橋の基幹産業であり前橋の発展に大きく貢献してきた蚕糸業に着目し、中心市街地に残る絹文化遺産を調査、解説MAPを作成・発行しました。また、現在も現役で取り組まれている蚕糸業を学ぶため、市内の養蚕農家及び安中市の碓氷製糸の見学会を行いました。現在、市内の製糸工場のチョップ(商標ラベル)と古地図における製糸工場の関係を調査中。今年度の活動報告として、3月のまちなかキャンパスで講座「前橋の蚕糸業を学ぶ～過去・現在・未来～」を行います。

これらの活動を通じ、市民・観光客の方に前橋の歴史文化及び現在の蚕糸業の取り組みを知っていただき、自己創造や今後のまちづくりのきっかけができればと思います。

2016

活動履歴

- 2月 下村善太郎翁展 協力
- 3月 まちなかキャンパス講座「前橋歴史遺産探訪 vol.8 ～中心市街地に残る絹遺産を巡る～」(前橋工科大学平成27年度地域活性化研究課題)実施
- 5月 JA 前橋市大胡稚蚕人工飼育所、養蚕家・松村哲也氏 取材
- 6月 養蚕見学会(NPO法人/RAC主催) 協力
前橋市市民学芸員ガイド講習「市内に残る絹遺産を巡る」講師
シルクロード・ネットワーク・新庄フォーラム 2016 参加
- 8月 前橋大空襲 慰霊の集い 主催
シルクサミット in 前橋(前橋市主催) ガイド協力、「前橋絹遺産MAP」配布
- 9月 前橋市観光パンフレット「WEBくるくるくん、街中ガイド」取材協力
NPO法人/RAC研究会「歴史遺産を地域づくりに活かす～本庄から」参加
- 10月 前橋まちなか文化祭「ハラサワコレクション vol.5」協力
前橋まちなか文化祭「青春の昭和40年代」主催
赤レンガネットワーク半田 参加
- 11月 前橋映像祭 参加 映像作品「蒔と倉庫」上映
- 12月 碓氷製糸見学会 主催
「群馬美味! 建築ガイドブック」展 協力



【臼井ゼミ 旧安田銀行担保倉庫見学】



【ハラサワコレクション vol.5】



【シルクロード・ネットワーク・新庄フォーラム 2016】



【絹糸の養蚕工程】



【慰霊の集い】



【青春の昭和40年代】

図 3. 活動紹介パネル (A1)

